

教科		技術・家庭
	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 社会において自立的に生きる基礎を培う観点から指導計画を改善する。	○ 小・中学校及び高等学校の関連教科の関連性を考慮し、3学年間を見通した指導計画を作成する。 ○ 自分の生活を振り返ったり、今後の生活を展望したりしながら、課題意識をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視した指導計画に改善する。 ○ 子どもの発達段階を踏まえるなど学習の適時性を考慮し、家庭や社会とのつながりを重視した具体的な題材を工夫する。
指導の工夫	○ 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。 ○ 事故防止のため、安全管理と安全指導を徹底する。	○ 実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、基本的な概念の理解を深める。 ◎ 授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。 ○ 校内や家庭で認め合う場を設定することにより、実践する喜びを味わうことができるようにする。 ○ 学習環境の整備に努めるとともに、実習室の使用規定、機器類の使用に関する安全規則及び情報活用に関する運用規定等を適切に定め、安全管理や衛生管理及び事故防止の徹底を図る。
評価の充実	○ 学習指導に生きる評価を確実に行う。	○ 評価の内容や方法を改善し、具体的な題材ごとの指導計画と評価規準を作成する。 ◎ 自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業のポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。**

- ・ 生徒に「なぜ」「どのようにすれば」という問いを意識させ、その解決のための「計画、実践、反省・評価」という一連の学習活動を意図的計画的に位置付ける。

授業のポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。**

- ・ 体験から感じ取ったことや気付いたことを自分の言葉でまとめ自己評価したり、整理・考察したことを説明し合って相互評価したりする。

例 技術分野では、製作図や回路図、フローチャート等を用いて考えさせ、考え出した解決策をめあてと照らして自己評価したり、友達と評価し合ったりできるようにする。

家庭分野では、調理のできばえやその理由を食品の調理性を基に考えまとめさせ、自己評価できるようにする。また、食事点検や住まいの安全点検などから、献立表や室内の安全マップなどの図表を用いて発表し合い、互いに評価し合えるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校】P123～130
(平成23年11月 国立教育政策研究所)